



糖尿病を持つ人を 災害から守るために

徳島県立中央病院 糖尿病・代謝内科 部長 白神 敦久

■ 糖尿病災害時医療チーム (DiaMAT) の取り組み

地震や豪雨などの災害が起こると、避難生活を強いられるなどして、糖尿病をはじめとする慢性疾患を抱える患者さんの生活は一変します。

特に、毎日インスリン注射が欠かせない1型糖尿病の方々にとって、災害は命に直結する重大な脅威です。インスリンの供給が途絶えれば、数日で意識障害や昏睡に至る「糖尿病ケトアシドーシス」を発症し、命を落とす危険があります。

一方で、2型糖尿病の方も、避難生活での食事内容の偏りや運動不足、極度のストレスにより血糖が乱れ、体調を崩すことが少なくありません。

災害時、医療の焦点は外傷に向けられがちですが、慢性疾患の悪化も同じく深刻です。血糖コントロールが乱れれば、脱水や感染、心疾患などを引き起こすおそれがあります。

こうした病状の悪化によって亡くなる「災害関連死」は、これまでも少なからず報告されています。病気そのものではなく、災害後の医療・生活環境の悪化が命を奪う—それは防ぎ得る死亡 (preventable death) です。その現実を、私たちは何度も目の当たりにしてきました。

この深刻な課題に立ち向かうために結成されたのが、

**糖尿病災害時医療チーム (DiaMAT: Diabetes Medical Assistance Team) **です。

DiaMATは、日本糖尿病学会と日本糖尿病協会 (JADEC) が中心となり設立されました。糖尿病専門医、看護師、薬剤師、管理栄養士など、糖尿病医療に携わる多職種の専門家で構成され、災害発生時には被災地の避難所や医療機関に入り、糖尿病患者の治療継続と健康維持を支援します。

活動内容は、インスリンや血糖測定器などの医療資材の確保、服薬・注射の支援、避難所での食事助言、医療スタッフへの支援など多岐にわたります。

また、DiaMATの使命は災害時にとどまりません。平時から行政・医療機関・地域住民と協力し、災害時の支援体制を整えるほか、患者や家族に向けて「災害への備え」を広めています。

非常時の持ち出し袋に予備のインスリンや注射針を入れておくこと、糖尿病手帳や薬の情報を携行すること、代替食の工夫など—。備えは命を守る力になります。また、「糖尿病のある人の災害対策マニュアル」も公開しています。

災害はいつ起こるかわかりません。だからこそ、「平時から備える」「いざというとき支える」—この二つを今、準備することが大切です。

DiaMATは、1型・2型を問わず、すべての糖尿病患者の

命を守るための活動を始めたところです。

また、徳島県の日本糖尿病療養指導士 (CDEJ) や徳島糖尿病療養指導士 (LCDE) の皆さん、ぜひ一緒に活動しませんか?

DiaMATのメンバーになるには、JADECのeラーニング受講が必要です。

災害時に糖尿病のある人を守る—それが、私たちDiaMATの使命です。



糖尿病のある人の
災害対策マニュアル



災害時糖尿病
医療支援チーム
DiaMAT

